

高月地域づくり
協議会だより

監査 友田 昭夫氏

(順不同、敬称略)

氏 名	所 属 団 体 な ど
北 村 又 郎	芳洲会・国宝維持奉賛会
山 岡 直 芳	NPO花と観音の里
村 井 弘	発起人・準備検討会委員・元町議
松 田 宏	発起人・高月連合自治会
安 藤 昌 裕	発起人・富永連合自治会
井 上 三子男	発起人・古保利連合自治会
新 木 和 治	発起人・七郷連合自治会
小 森 修	発起人・準備検討会委員・前富永学区長
柴 田 勘 治	発起人・準備検討会委員・前高月学区長 人権擁護委員協議会第3ブロック
武 藤 繁 一	発起人・準備検討会委員・前古保利学区長
北 川 明 宏	発起人・準備検討会委員・前七郷学区長 伊香交通安全協会高月支部
近 藤 斉 伸	老く連高月支部・人権学習協議会 準備検討会委員
宮 部 明 美	地区ボランティア協議会
七 里 藤 吾	地区社会福祉協議会
東 野 智 賢	地区民生児童委員協議会
大 比 叡 延 子	更生保護女性会高月分区
赤 尾 敬 子	子育てサークル連絡会
橘 厚 子	高月町健康推進員協議会
本 田 靖 子	高月町赤十字奉仕団
友 田 昭 夫	高月青少年育成会
高 橋 政 人	子ども会連合会高月支部
保 積 郷 司	高月消防団・準備検討会委員
田 中 敏 孝	保護司会伊香地区会
武 田 雅 博	高月町商工会
八 田 茂 春	高月町観光協会
中 川 定 次	NPO花と観音の里
森 川 勝	農業経営者会
森 正 晃	高月文化協会
保 積 和 行	高月地区スポーツ少年団
中 橋 富 雄	高月総合型スポーツクラブ設立準備委員会
松 井 泰 裕	準備検討会委員・元青少年育成町民会議
高 村 一 良	準備検討会委員・元町社会福祉協議会
立 見 安 弘	準備検討会委員・元町議
吉 田 徳 夫	準備検討会委員・元町議
浅 見 勝 也	準備検討会委員・市会議員
森 田 義 人	準備検討会委員・市会議員
山 岡 孝 明	準備検討会委員・市会議員

む、発起人会は、去る8月2日第5回発起人会を開催し、設立に向けた基本的事項を確認したことから、地域内の各方面で活動する団体のなかから主だった団体の代表者等に地域づくり協議会設立を呼びかけ、準備会の発足のための第1回会議を8月10日高月支所会議室で開催した。

第1回設立準備会では、これまでの取り組み経過が説明された後、準備会会則が承認され、会長、副会長、監査の役員が選任され、地域づくり協議会設立に向けた取り組みがスタートした。

第1回高月地域づくり協議会設立準備会は、8月10日午後7時30分、設立準備会委員を委嘱された団体等の代表者や有識者（左表）のうち26名が出席され、高月支所3階会議室で開催されました。会議は、発起人代表松田宏の開会あいさつ

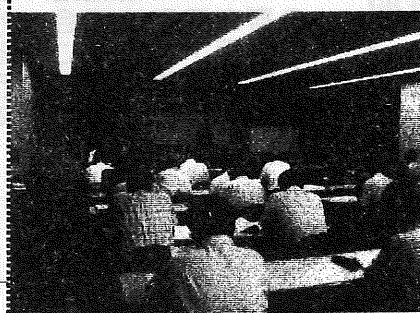
出席された委員から、「他地区での協議会設立の状況をみると旧市町ごとに複数の協議会が設立されているが、高月町は一つの協議会設立をめざしているのはなぜか。」日本全体が少子高齢化することです。その地域も弱体化が懸念されている。そんななかでこの組織を設立することになるが将来まで維持できるのか。また一地域づくり協議会の設立目的は、合併による公共サービスの低下を肩代わりさせるためのもではないか。合併協議では公共サービスの低下は起こさないという約束ではなかったか。」などといった意見や質問がだされました。

その後、発起人から協議会の設立趣意書と組織図（案）が示されましたが、今後の準備会で詳しく検討することや会則に基づく役員を選任が行われました。

に続き、市役所市民自治振興課森野主査による市が各地区に設立をすすめる地域づくり協議会について「今、なぜ地域づくりなのか」「地域づくり活動とは」「など高齢化が進む地域のデータや他地区での取り組み状況などの紹介をまじえて概要が説明されました。

高月
地域づくり協議会
設立準備会
事務局：高月支所内

第1回準備会の写真



Q、なぜ地域づくり協議会の設立が必要なのですか。

める。高月地域のまちづくりを進めるために設立をめざしている「地域づくり協議会」について、なぜこのような組織が必要なのか。どのような活動をし、どのような点において、くわからない点がいっぱいある。そんな疑問や質問にお答えいたします。

A、長浜市は二回の合併で一市八町が統合したことになる。市の面積は琵琶湖の面積にも匹敵するほど大きくなりました。市政は公平・平等で格差のない運営がされることは当然ですが、これほど区域が大きくなると地域の特性（歴史や文化）を活かした個性があるまちづくりの事業や地域ごとの課題への対応において行政だけでは十分な対応ができません。地域のことを見込まれます。人々によつて行政だけではできなくなる公共サービスの一部を担うことや地域の課題をみんなが考えて、行政からの支援を得ながら解決して行こうとする地域の自立が必要になります。地域のことは自らで考え、行動しなければ誰もしてくれませんが、少子高齢化がいつそう進もうとしています。みんなで支え合う地域社会を築くためのネットワークとして地域づくり協議会の設立が必要だと考えています。

Q、自治会活動とどこが違うのですか。

2050年(平成62年) 40年後
 総人口=95,152千人
 高齢者人口=37,641人
 高齢化率=39.6%

確かにこれまでのまちづくりや地域づくりの活動は自治会（合併前は区といっていた）が主になって行ってきた。これからも基本的には、日常の身近な問題などについては地縁で結ばれた集落ごと、の自治会で取り組まれるものと考えます。

とところが、近年、集落では過疎化や少子高齢化が進みコミュニティ（地域共同社会）意識が薄まり人手不足による弱体化が進みつつあるといわれています。また、防犯・防災あるいは環境問題など一つの自治会だけでは解決できない問題も増えてきています。今までの集落や自治会の枠を広げた「地域」で取り組むことで、効率的、効果的に解決することや、きめ細かに対応できることがありそうです。

高月地域には四つの連合自治会に三三自治会があります。新しく組織する「一地域づくり協議会」はこの自治会とお互い協力連携して地域の課題に取り組みうとするもので、それをネットワーク化する役割を担うのが地域内の各方面で活躍する団体に所属する人々だと考えています。そのことから多くの団体の加入が必要となります。

※国立社会保障・人口問題研究所資料による

Q、地域づくり協議会でどんなことをしようとしているのですか。

A、市では地域づくり協議会の領域を概ね公民館区域を一つの「地域」と捉えています。高月地域には公民館が一つであること。また、協議会の活動が自治会の枠を広げた取り組みを行うためには、PTA、老人クラブ、女性団体、子ども会、NPOなど市民生活団体やまちづくりに積極的な個人など、幅広い層からの参加が必要になります。これらの団体の組織や活動範囲は旧高月町を区域とする団体が大半であることから、高月地域における地域づくり協議会は旧町区域を一つとして設立することとなりました。

A、地域には、地域住民にかかわる公共的な活動がたくさんあります。これを活動の活動や取り組みを進めているのは、住民自身であつたり、行政であつたりしますが、これまで公共サービスはもっぱら行政により提供されるものと考えられてきました。しかし、今後は市税収入の減少等により行政が対応できる範囲が縮小するものと考えられます。そこで、地域住民が行政と共に公共サービスを提供する側に参加すること、より地域の実態に適した丁寧なサービスが可能になります。たとえば、夏休みのプール開放もその一つと考えられます。今年はとりわけ猛暑の夏でしたが、残念ながらプール開放ができませんでした。公共サービスの実施には規則や制約があり思い通りに行かないことがありますが、こうしたことと地域づくり協議会がかかわり地域のの人々と取り組むことで解決できそうです。

疑問・質問にお答えします